新春特集

チャンス

新しい時代は、ものを資源に「こと」を起こす時代
今、長洲町で始まろうとしている「こと」とは――

Nagasu SPECIAL

トステム（株）有明工場の東側遊休地に現在建設中の大規模太陽光発電施設（メガソーラー）。民間企業では国内最大クラスの設置となり、約２万枚のソーラーパネルが並ぶ景色は圧巻。完成後は、環境面に配慮した設備としてだけではなく、社会科見学ルートや観光資源としての活用も期待されており、「環境の町・長洲」としての新たな挑戦が始まろうとしている。

あけましておめでとうございます。輝かしい新年の幕開けを健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。私も町長に就任して以来、皆さんのご支援によって、2度目の新年を迎えることができましたことに、心から感謝申し上げます。

希望与えた在来線の確保 今後まちづくりの武器に

昨年を振り返るとまず、昨年12月17日にJR九州から発表された長洲駅の在来線について、九州新幹線開業後も特急列車や快速列車が運行されることになったことは本当に喜ばしいことだと感じています。このニュースは、町民の皆さんにも「強い希望」を与えてくれるものであり、「地域の大きな財産」を失わずに済んだことにほっとしています。

在来線の衰退は、地域の衰退にもつながりかねない大きな問題で、何としても利便性を確保したいと、これまで町議会や町商工会と一体となって要望活動を行ってきました。町出身であるJR九州熊本支社の役員の皆さんに大きな力となっていただき、ふるさと長洲町のため、大変な尽力をいただいたことにとても感謝しています。

中でも、長洲駅を発着とした特急「有明」が運行されることは、今後まちづくりの武器として、大きな魅力になるものと確信しています。今後は「駅を中心としたまちづくり」や「九州新幹線を生かしたまちづくり」に積極的に取り組むと共に、「在来線の利用拡大」や「観光客の利用拡大」など、さらなる活性化にも力を入れたいと考えています。

環境の町へ新たな展開 金魚の館再開への期待

トステム（株）有明工場の国内最大級・太陽光発電施設の建設も大きなニュースです。この施設は、同社と町、県が共に国に申請して、建設が決定しました。今後はこの施設を生かして環境に配慮したまちづくりを展開していきたいと考えています。この施設は環境面だけでなく、子どもたちへの環境教育の実施や観光資源としての活用など、さまざまな可能性を秘めています。環境をテーマにした社会科見学ルートを確立し、さらに現在休館中の「金魚の館」とメガソーラーを結ぶ観光ルートで多くの小中学生や観光客を町に呼び込んでいきたいと考えています。現在「金魚の館」の再開に向けて、さまざまな取り組みにも着手しています。館の活用については、多くの皆さんからの期待を感じており、何とか開館したいと考えています。

子どもたちに夢や未来を 充実した教育と子育てを

子どもたちの教育においてはこれまで、英語教育の充実や「夢の教室」の実施に取り組んできました。子どもたちが、夢や未来を描ける機会を増やしていきたいと思っています。また、子どもたちが本を読むことで未来への視野を広げることができるよう、今後も図書の充実に取り組んでいきたいと考えています。

就任以降、子育て支援には特に力を注いできました。まだまだ課題は多いですが、子ども医療費やワクチン接種などは財政状況が厳しい中でも、優先的に取り組んでいきたいと思います。今後も子育てサークルなどと対話を重ね、支援体制を充実していきたいと考えています。

さらに動きのある一年 町にとっても活性化する 大きなチャンス——

福祉・交通 充実で安心を 産業・商業 連携で活性化

本年は、町内数カ所に、小規模多機能ホームや通所介護（デイサービス）施設などの高齢者介護施設がオープンする予定です。住み慣れた地域で安心して暮らせるように、施設と地域が一体となって地域福祉の充実を図っていきたいと思います。

利用が少なかった町内環状線バスの見直しも、大詰めを迎えています。現在、関係者による協議会でも「利用しやすい交通体系」が議論されており、本年策定の連携計画に基づき、新たな公共交通をスタートさせたいと考えています。

産業の面も、地場産業の充実のため、海苔の養殖、ミニトマトの生産、町の主要生産品である米麦などさらに活性化させたいと思っています。そして、忘れてならないのが金魚の生産。金魚の館を再開させ、金魚の養殖を伝統産業としてもう一度活性化したいと思っています。

商業面においても、多くの特産品を商業者の皆さんが連携して、全国にアピールすれば、もっと売れるようになるはずです。そのような取り組みの一つに、長洲町でも「軽トラ市」などのPRの場があれば、町の活性化につながるのではないかと思っています。

26年度には赤字を解消 下水道普及率を強みに

町の大きな課題であった、財政の健全化にも目途がついてきました。平成26年度には必ず、下水道会計の赤字を解消したいと思っています。この下水道赤字によって、長洲町には暗いイメージが先行していましたが、下水道のおかげで私たちは豊かで快適な生活を送ることができています。今後は、下水道の普及率の高さを強みに、どのように人口を増やしていくかが大きな課題となってきます。

動きあるチャンスの年 一人ひとりの力を集結

12月定例議会で、まちづくりの指針となる「第5次長洲町総合振興計画」が議決されました。

町の将来像である「みんなの力で、夢・希望・活力・安心のあるまち」に向けて、本年はスタートの年。就任3年目となり、この計画を受けてさまざまなことがさらに動き出す一年になります。これは、町にとっても活性化する大きなチャンスです。

また今年も、積極的に座談会を開催していきます。みんなで話し合えばいろいろなアイデアが生まれてきます。まちづくりには、町民皆さん一人ひとりの力が必要です。今後も皆さんと直接会って話をすることは、私の町政運営の基本姿勢です。

2011年も長洲町のために、皆さんと共にまちづくりを進めていきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

Nagasu SPECIAL 新春特集

チャンス

チャンスに寄せる期待と思い

まちづくりは町民一人一人の幸せをつくるためにある

2011年、長洲町は新しいアクションを起こす

計画されている5つのチャンスに寄せる期待と思いを聞いた―

環境の町へ　トステム(株)「創エネ」への期待

ワンランク上のさらなる取り組みに挑戦

自社ではこれまでも製造過程や商品開発などで省エネに努めてきました。世の中のエコへの意識も年々高まっています。今回のメガソーラー設備では、有明工場で使う電力の2割を賄うことができます。年間一般家庭1,000世帯分の発電量、1,400tCO_2削減を見込んでいます。時代は「省エネ」から「創エネ」へ。一歩進んだ「環境の町」としての挑戦に、行政と共に取り組んでいきたいと考えています。

トステム株式会社
戸頃 博文 西日本統轄工場長

JR特急長洲駅発着　快速運行で広がる可能性

ピンチをチャンスに　さらに便利な「足」へ

昼間の特急は走らなくなりますが、朝・夕の時間帯に特急「有明」が長洲駅発着になることや快速が走るようになることで、これまで以上に便利になるのではないかと思います。これらの結果は「地元からの声」があったからこそ。私もこれをきっかけに、あらためて多くの人の「足」という役割を実感することができました。今後もイベントなどを通して、行政と協力しながら、町を盛り立てていけたらと思っています。

九州旅客鉄道株式会社
米本 治久 荒尾駅長
（長洲駅管理駅長）

Chance 1

3月 竣工

国内最大級の発電施設

有明工場の東側遊休地約119,000㎡に現在建設中。民間企業では国内最大級の大規模太陽光発電施設（メガソーラー）。総事業費約19億円。環境面への期待が高まる。

Chance 2

3月12日 スタート

JR在来線の利便性確保

九州新幹線全線開通により、懸念された特急の存続問題。昨年12月17日、長洲駅発着を含む朝・夕計7本の特急と日中の快速運行がJR九州から正式に発表された。

Chance 3

23年度中 着工予定

金魚の館

財政健全化のため策定された「緊急行財政行動計画」により平成20年4月から休館中。現在、23年度中の改修、24年度のリニューアルオープンを目指している。

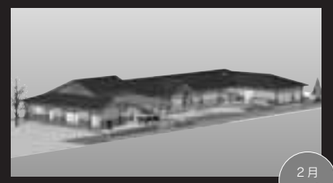
Chance 4

10月 運行予定

地域公共交通の見直し

昨年より交通事業者や行政などの関係者で協議会を設立。アンケートや座談会などを行い、本年3月「連携計画」を策定。10月から実証運行が予定されている。

Chance 5



2月 オープン

ながすせいわの里

グループホーム併設の小規模多機能ホーム。昨年3月、「地域密着型サービス開設予定事業者」として町が選定。大明神区に2月オープン予定。

金魚の館　リニューアルオープンに向けて

町をPRでき、みんなが楽しめる場所に

長洲中学校　3年
中井　唯斗 くん

「金魚の館」がずっと閉館しているので何かに使えないかと思い、7月に行われた「夢づくりトーク」(町長と中学生との座談会)で中逸町長に質問しました。町長からは「これからリニューアルして開館したいと思っています」と返事をもらい、うれしかったです。この館が長洲町のＰＲとなり、町内の人も町外の人も楽しめるような、そんな場所になればいいなと思っています。

地域公共交通　ニーズにあわせた地域の足へ

必要とされる「地域の足」づくりが大切

地域公共交通活性化協議会
浦田　計廣 副会長

高齢者にとって交通の手段がないことは、生活する上でとても不安なことです。交通体系が整えば、通院や買い物など生活が便利になるのはもちろんですが、家に引きこもりがちの高齢者が外に出るきっかけにもなると思います。今後、町が描く将来のビジョンに沿って、行政と住民が協働し、長く必要とされる地域の足を整えていくことが大切だと感じています。

高齢者介護施設　住み慣れた地域で暮らせる安心

人がつながり地域に根ざした施設に

医療法人社団　聖和会
片山　伸希 さん(右)
黒田　　直 さん

住み慣れた地域で安心して暮らすことは誰もが願うことです。私たちはあくまでも在宅生活を支援するという体制と一人一人に合わせたサポートを考えていきたいと思っています。また施設には、地域の人や子どもたちが自由に使ってもらえるスペースを整備しています。人と人とのつながりを大切に、一つ一つを積み上げながら、地域に根ざした施設をつくっていきたいと考えています。